

# 20万分の1 地質図幅「名古屋」の出版

## 基盤情報としての広域地質図の果たす役割



水野 清秀

みずの きよひで

k4-mizuno@aist.go.jp

地質情報研究部門  
平野地質研究グループ  
研究グループ長  
(つくばセンター)

主に平野およびその周辺に分布している、未固結の地層の特性や分布を調査・研究しています。特に地層に挟まっている火山灰層を鍵層として、平野の地下地質や断層運動と堆積盆地形成史との関係などを解明し、防災・産業立地などに役立つような基礎的な地質情報を提供しています。

### 関連情報：

● 共同研究者

小松原 琢、脇田 浩二、竹内 圭史、西岡 芳晴、渡辺 寧、駒澤 正夫、中島 和敏（産総研）

● 関連情報

地質調査総合センター地質図カタログウェブサイト  
<http://www.gsj.jp/Map/index.html>

20万分の1 日本シームレス地質図ウェブサイト  
<http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/>

### 20万分の1地質図とは

地質図は、地表に分布している岩石や地層などをその特徴や形成年代などによって細分し、地形図上に表現したものです。地質調査総合センターが作成出版している主な地質図には、縮尺が5万分の1の地質図幅と20万分の1の地質図幅があります。縮尺5万分の1の地質図幅は、野外調査を実施し、岩石や地層を持ち帰ってさまざまな分析を行い、細かく地質区分を行って作成されます。20万分の1地質図幅は、5万分の1地質図幅や既存の研究論文などをもとに、追加の調査などを行って編集されたものであり、より広範囲をカバーしています。

地質図の区画は国土地理院から発行されている5万分の1地形図や20万分の1地勢図の範囲と一致しており、その地域名を用いて地質図幅「〇〇〇〇」のように表現しています。地質図ではなく地質図幅と表しているのは、国土地理院の地図と一致した四角形の枠の地質図を強調するためです。2009年度の終わりには、これまで未出版であった地域の20万分の1地質図幅が完成し、この縮尺での全国カバーが達成されます。

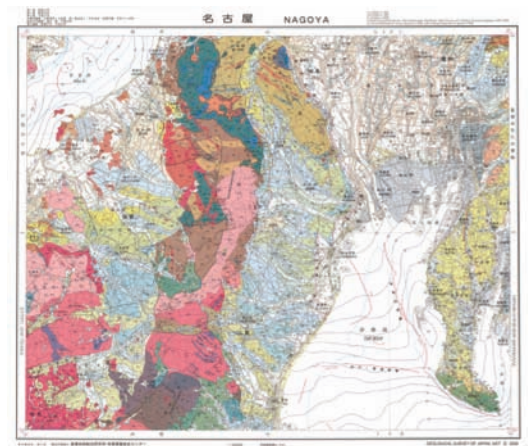
### 「名古屋」図幅の特徴

今回出版した20万分の1地質図幅「名古屋」は、琵琶湖を含む近江盆地中央部から名古屋市が位置する濃尾平野および伊勢湾北部周辺の地域をカバーしています。「名古屋」は2回目の改訂にあたり、この地域では5万分の1地質図幅16区画が全て出版されており、それらを中心に編集した最新版（第3版）では、より精度の高い地質図ができあがりました。地質図のほかに鉱山・碎石場・温泉などの所在や地下の密度分布を反映した重力異常のデータが示されています。この地域には、直下型地震を起こす活断層が多数存在していて、これらの詳細な調査が1990年代後半から集中的に行われ、その成果が活断層の分布として示されています。また第2版までは、低地を構成する沖積層は細分されていませんでしたが、今回、微地形に基づいて細かく分けました。

### 広域地質図の利用法

特定区域の詳細な地質情報を得るには、5万分の1など大縮尺の地質図が役に立ちますが、20万分の1の縮尺の地質図のほうがわかりやすいことがあります。例えば活断層がどのような分布をしているかとか、山地を構成する岩石はどのようなものがどのように分布しているかとか、大規模な平野の中で軟弱地盤である後背湿<sup>たいせき</sup>地堆積物が主にどのような地域にみられるかなど、広範囲での分布の概略や大規模な地質構造などを把握するには適当な縮尺となります。また、現在琵琶湖として存在する内陸域の堆積盆地は、400万年前にははるか南方の上野盆地にあり、時代とともに北上して現在の位置に移動してきましたが、「名古屋」図幅ではこのような堆積盆地の移動を読み取ることができるように凡例を工夫しています。このように20万分の1地質図幅はその地域の特色を出した凡例を多数用意できることとなります。

なお、20万分の1地質図幅は地形図の範囲で区切られているため、図幅の枠内に自治体や平野・山地などの全体の範囲が収まっていないことが多く、1枚の地質図では全体を把握することができない場合があります。そうした点を補うため、地質調査総合センターでは20万分の1シームレス地質図と呼ばれる、統一の凡例にしたがって全国をカバーした地質図を作成し、ウェブ上で公開しています。



20万分の1地質図幅「名古屋」（第3版）の一部。裏面に説明文が付いている。